

名古屋市教育委員会 様

名古屋市立 第二 幼稚園長
伊藤 知穂美

令和6年度 学校評価報告書

学校教育の努力点(主題)	特に大切にしたい要素					
	I	II	III	IV	V	VI
自分が大事 友達が大事 ～一人一人の心が動く環境の構成を考える～	○			○		

1 実践のねらい

幼稚園生活の中で様々な環境と出会い、「これがしたいな」「どうしたらいいかな」などと心を動かして遊ぶ中で、自分のありのままを発揮する満足感や友達と一緒に遊ぶ充実感を味わう。そこで、幼児が心を動かしている場面を捉え、どう心を動かしたかを明らかにしていくとともに、そこから友達に目が向き、良さに気付くための大切な環境について研究を通して考えていきたい。

2 実践のねらいに迫るための手だて

- ① 保育後の何気ない話や日々の記録、週案立案の際に、一人一人の育ちや育てたい姿を明確にし、心を動かす環境について考え、実践する。
- ② 研究保育や事例検討を通し、一人一人の経験していることや環境の構成について意見交換する。また幼児の心が動いた場面やそのきっかけ、そのために大切な環境について明らかにし、次への手立てを考える。
- ③ 園の取り組みを保護者や地域の方にも伝え、本園の取り組みへの理解を深める。

3 実践の内容

- ・ 研究保育や事例検討では一人一人の心が動いた場面を捉えたり、そのときに有効だった環境の構成は何かを明らかにしたりした。また、外部講師を招き、努力点研究会で指導助言を受け、次へ活かす視点をいただいたことで、幼児一人一人の心の動きや育ちに寄り添った環境の構成を考え実践に生かした。
- ・ 学校評議員や近隣の小学校教員に園に来ていただき、環境や園児の日々の姿のドキュメンテーションを見ながら幼児期に大切にしていることを伝える機会を作ると共に、日々の幼児の育ちについて話し合い、園教育への理解を得られるようにした。
- ・ 幼稚園評価から、保護者の思いや考えを知るとともに、学校評議員会においても意見を聴取し、改善策について職員で話し合った。

4 成果と課題

- ・ 一人一人の心の動きを丁寧に捉え、そこから育ちに合った必要な環境の構成を考えていくことで、自分の思いを出したり、友達と遊ぶ充実感を味わったりすることを実感として捉えることができた。保護者アンケートにおいて、「発達や状態に合わせて遊具や教材を工夫していると思うか」という項目と「先生や友達と関わるうれしさを感じていますか」という項目では「A:そう思う、B:だいたいそう思う」合わせて100%だった。今年度工夫してきた幼稚園の取り組みと研究内容が理解されていることが伺えた。一方で「幼稚園は園での様子について分かりやすく伝えていきますか」という項目では「あまり思わない」が7.9%あった。今後も更に、伝え方を工夫したり機会を増やしたりすることが必要だと感じた。
- ・ 評議員の方からは、「努力点のテーマに合わせた幼稚園の工夫が伝わりましたか」という項目で「よくわかる」「子どもたちがのびのびと遊んでいるのがいい」と本園の教育を評価されるとともに、「これからも主体的に遊ぶ幼児の育成を続けていってほしい」と励ましの言葉をいただいた。
- ・ 近隣の小学校教員から「『答えをもっているのは教師ではなく子どもたち』と考えていることが伝わった。『子どもは有能な学び手である』という考えを実践している」「幼稚園教諭はまさに伴走者」という意見をいただき、幼児教育の理解を深めることができた。

5 来年度に向けて

- ・ 一人一人が安心して自らの思いを実現できるよう支えていくことで自分の良さに気づき、先生や友達と一緒に遊ぶ充実感を味わった。さらに友達の内面の良さにも気づいて、互いに高め合っていける幼児の育成に努めていきたい。